二〇二一年五月一日

未だ見えぬ瞳きよろきよろ稚日永　はく子

藤揺れて飛蚊の止まぬ目玉なり　なつき

免許返納空き家の車庫に燕来る　よう子

春耕の堆肥に隣る鐵工所　素秀

さざ波が寄せ風が来て杜若　うつぎ

青白く真夜の浜染む蛍烏賊　凡士

のどけしや里曲にコイン精米機　よう子

青空へ透ける大樹の樟若葉　わかば

さへづりや茶室に杢の香の満ちて　なつき

豪快に尿する馬や春の昼　よう子

若葉風葵紋彫る歩道橋　なつき

八重桜鏡光りす墓石かな　素秀

菜園の支柱に小さき鯉幟　うつぎ

春灯下火花の走る造船所　素秀

鐘霞む村を眼下に峠道　愛正

尺取りを手に踊らせる幼かな　こすもす

白きもの白く洗ひて夏兆す　更紗

田水張り終えて安堵の笑顔かな　かかし

御神馬のやんちや盛りや春の泥　うつぎ

孔雀どちそれぞれ選ぶ新樹蔭　わかば

桜蘂降り敷く寺領鐘一打　かかし

葦の芽の伸びてさ揺らぎそめにけり　はく子

春時雨百万石の城下町　宏虎

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年五月二日